

広報

# としま



平成26年  
(2014年)

8/15

第64回社会を  
明るくする運動  
特集号

ソメイヨシノ発祥の地としま

主な内容

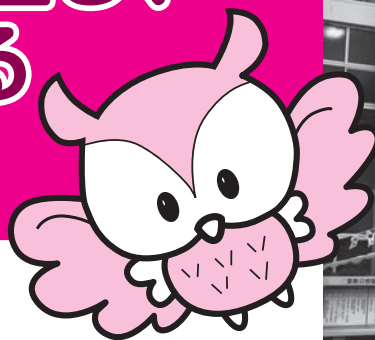
中央大会「区民のつどい」……………1面

作文コンテスト受賞作品……………2・3・4面

発行：豊島区 〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1 ☎3981-1111(代表) 編集：子ども家庭部子ども課 ☎3981-2187(直通)

## “社会を明るくする運動”

犯罪や非行を防止し、  
立ち直りを支える  
地域のチカラ



豊島公会堂

### 《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい地域社会を築こうとする全国的な運動です。

この運動は、東京・銀座の商店街の有志の方々が非行の予防等を広く訴えるために昭和24年に開催した「銀座フェア」をきっかけとして、昭和26年に始まりました。その後、法務省の主唱により、毎年7月を強調月間として全国で展開され、今回で64回目を迎えます。



### 「第64回“社会を明るくする運動”」の行動目標・重点事項

#### 《行動目標》

- ① 犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう
- ② 犯罪や非行に陥らないよう地域社会で支えよう
- ③ これらの点について、地域社会の理解と協力の輪を広げよう

#### 《重点事項》

- 「立ち直りを支える取組についての協力の拡大」
- 「就労・住居等の生活基盤づくりにつながる取組の推進」

### 中央大会「区民のつどい」次第

#### 第一部 セレモニー

作文コンテスト表彰式  
作文コンテスト推進委員長賞・  
常任委員長賞作品発表

#### 第二部 映画上映

映画「石井のおとうさんありがとう  
—岡山孤児院・石井十次の生涯—」  
上映

## 7月13日(日)に中央大会「区民のつどい」を開催しました。

豊島区では、“社会を明るくする運動”の趣旨を広くPRするために、毎年強調月間の7月に中央大会「区民のつどい」を開催しています。第64回を迎える今年、第2部で大勢の孤児を救った福祉

の父とも呼ばれる石井十次の一生を実話に基づき制作された映画「石井のおとうさんありがとう—岡山孤児院・石井十次の生涯—」を上映しました。

### 第 1 部

今年度も『いのち』を題材として、作文コンテストを実施し、区内小中学校の皆さんから1594点ものご応募をいただきました。その中から優秀作品として小中学校各5作品の表彰を行い、推進委員長賞・常任委員長賞を受賞した作品の発表が行われました。今年度は、それぞれの体験を通して『いのち』について

考えた作品、また人との関わりの中で“社会を明るく”するため自分にできることを考えた作品が多くみられました。堂々と自分の意見や体験を発表する姿は、観客の心をつかみ、中にはうなづきながら聞いている人もいました。誰もが『いのち』の大切さについて改めて考える機会となりました。

### 第 2 部

映画「石井のおとうさんありがとう—岡山孤児院・石井十次の生涯—」は実在した石井十次の一生を追った作品です。平成17年に公開され、その年の児童福祉文化賞を受賞しました。俳優の松平健さんを主演とし、子どもから大人まで幅広い世代に感動をもたらした、福祉の大切さを改めて考えさせられる作品となっております。真夏の暑さの中、たくさんの方においでいただき、中央大会「区民のつどい」は無事幕を閉じることができました。

ルーツを探るために、そしてその“石井のおとうさん”とは誰なのかを知るために、祖父の生まれ育った日本・宮崎の地に向かう…。

～ものがたり～  
日系ブラジル人のニシヤマ・ヨーコは、祖父から写真を手渡される。そこには西郷隆盛を彷彿とさせる大男の姿が写っており、裏には「石井のおとうさんありがとう」と書かれていた。ヨーコは日系人である自分の

宮崎の児童養護施設で、園長と出会ったヨーコは、祖父が育った“岡山孤児院”の存在と、福祉という言葉もない明治時代に、命と生涯をかけて、三千人もの孤児を救った“石井十次”という男の名を知る次第に解き明かされていく、十次の波瀾万丈の生き様。そして、まさに奇跡としかいいようのない偉業の数々。一度は放蕩に身を持ち崩しつつも、改心して立ち直り、“孤児の父”として、次々と襲ってくる困難を、祈りつつ、あふれる愛と斬新なアイデアを持って乗り越えて行くその姿は、まさに“愛と炎の人”であった…。

### “社会を明るくする運動”にご協力頂いている団体(50音順)

- (寄付金)
- 株式会社 アール・エス・シー
  - 株式会社 サンシャインシティ
  - 株式会社 藤久不動産
  - 株式会社 東武百貨店池袋店
  - 宗教法人 高岩寺
  - 宗教法人 西福寺
  - 宗教法人 祥雲寺
  - 宗教法人 眞性寺
  - 宗教法人 法明寺
  - 東陽堂申堂奉賛会
  - 藤久地所管理株式会社
  - 東京商工会議所豊島支部
  - 東京信用金庫
  - 豊島区商店街連合会
  - 豊島区町会連合会
  - 豊島区保護観察協会
  - 豊島西ライオンズクラブ
- (寄贈)
- 東陽信用金庫
  - 東京信用金庫
  - 東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会

小学生の部 中学生の部 作文コンテスト受賞作品

**推進委員長賞** **ふわふわ言葉とちくちく言葉とは** 長崎小学校 5年生 福本 梨加



わたしたちはふだん、ふわふわ言葉とちくちく言葉のどちらを使っているのか、考えて生活しています。ふわふわ言葉は、相手をほめる言葉はもちろん、「おはよう。」や「ありがとう。」など、相手の心を温める言葉です。一方ちくちく言葉は、相手に対する文句や悪口はもちろん、「早くしろよ。」や「うるさいんだよ。」など、相手にいやな思いをさせてしまう言葉です。そして、世の中の人はいざという時に「心のバズル」という物を持っています。相手が笑顔になるようなことをするとピースが少しずつ増えていき、逆に相手がいやな気持ちになるようなことをしてしまうと、ピースはへってしまいます。だから、一人ひとりがおたがいに仲良くすれば、心のバズルもどんどん増えてみんなが幸せになり、毎日がもっと楽しくなる印だと思います。学校の友達はもちろん、おうちの人や地いきの人、担任の先生にもあいさつをすると、やさしく返事をしてくれます。それほどわたしたちのことを一生懸命考えてくださっているんだと思います。そして、たった一言のふわふわ言葉で心のバズルはどんどん増えていくので、世の中の人をわたしたちもみんな笑顔

になると思います。わたしの学級のみんなはとてもやさしい子が多いです。しかし、わたしに対して冷たくせつて来る子も少しいます。ふわふわ言葉とちくちく言葉がいっせいに飛び交うと何だかふくざつな気持ちになります。そしていくらかちくちく言葉で人をきずつけてしまっても心のピースはなくなってゆくだけなのに。人のピースもへってしまうだけなのに。このように、ふわふわ言葉とちくちく言葉はこんなちがひがあります。罪を犯してしまった人に対して冷たいのでふるまったりかけでちくちく言葉を使ってうわさをするのは良くないと思います。たしかに、罪を犯してしまうのは悪いことです。でも、罪を犯しても生きていきたい、生きる場所さえ無し、これから反省して立ち直ろうと思っているのに、冷たいのでふるまうと、自分も罪を犯した人も心のピースはゼロのままです。あいさつだけでも構わないと思います。みなさんのたった一言のふわふわ言葉で明るい社会は作りだされていくのだと思います。



作文コンテスト 中学生の部 受賞者



作文コンテスト 小学生の部 受賞者

**常任委員長賞** **笑顔はあいさつ** 長崎小学校 6年生 大野 実乃理



いつも登下校にいる旗ふりのおじさんにあいさつをしているだろうか。私は毎日あいさつをしている。私はうれしい時も、楽しい時も悲しい時も辛い時も旗ふりのおじさんと話す、それだけで笑顔になれる。それは、「あいさつ」をしているからだ。旗ふりのおじさんと、私は、毎日あいさつをかわしている。いつも「おはよう。今日もがんばろうね。」や「今日何があったの。」「明日も元気に登校してね。」ととてもやさしい言葉をかけてくれて、いやなことでも忘れられる。しかし、下の学年はあいさつをしている人もいれば、していない人もいます。はずかしくて、しゃべれないのだろうか。あいさつを交わさない人は、反省した気持ちを持った人もいれば、何の気持ちも持たない人もいます。けれど、旗ふりのおじさんの気持ちになったらどうだろう。なぜだろうと複雑な気持ちになると思う。あいさつがはずかしいと思う子がどのような人なら、あいさつをするのだろうか。それは、きっと「笑顔」のある人だと思う。私は知らない人でも顔を合わせれば、笑顔を送る。そうすると、知らない人でも笑顔を送ってくれるのでとても

うれしい。しかし、人はみんながうから笑顔を送られた人の気持ちはさまざま。だから知らない人が笑顔を送ってこないのは、さみしいが悪いことではないと思う。しかし、毎日会っていてあいさつもしてくれて、やさしい声がけしてくれるのにあいさつをしないことは意味がちがう。どんなに悲しくて、いやなことがあったとしても、それは自分だけでほかの人は知らないし、関係ない。きっと自分からあいさつが出来ない子は、自分からあいさつが出来るように、あいさつをしている人はあいさつを返してくれるような笑顔が必要だと思う。私は家でも学校でも人を傷つける言葉を言ってしまふ。分かっていても、ついついでしてしまうのだ。言ってしまった後は反省の気持ちでいっぱいになっている。それを続けていくと、今度はある一言から大きな「いじめ」にもつなげることもあると思う。それを止めるのがあいさつ。「おはよう」「またね」といった一つの言葉でそのいじめは少しずつ少しずつ、なくなっていくと思う。だからといって人を傷つけるあいさつは絶対にいけないことだ。言った人がだれであろうと関係ない。私は許さない。だから私は、いつでもみんなの帰りを待っている旗ふりのおじさんみたいに元気にしてくれる、勇気つけてくれる、笑顔にしてくれる言葉を常に話していきたい。そして、そんな心のやさしい人になりたいと心から強く思う。もし、自分がだれかに人を傷つけるような言葉を言ったら、自分にきびしくしかり、自分が言われたらどうかを考え、反省する。これからは中学校へと新たな大人の道を進んでいく。生活がきびしくなっていく中でも、あいさつで人を笑顔にさせていきたい。これからもずっと。笑顔で顔を合わせれば、それはもうあいさつだ。

**優秀賞** **あいさつ** 長崎小学校 4年生 田中 俊行



学校でも家でも、あいさつは大切だとよく言われる。「明るい声であいさつしなさい。」とも言われる。ぼくは今まで、言われた通りに大きく明るい声であいさつするようにしてきた。けれども、なぜあいさつが大切なのかについては考えたことがなかった。あいさつは、なぜ大切なのだろうか。ぼくは、友達があいさつをしてくれたとき、とてもうれしかったので、きっと友達も、あいさつをしたらうれいだろうと思う。反対に、あいさつをされなかったら、気分が落ちこむと思う。また、どんなふうにあいさつするか、あいさつのしかたも大切だ。あいさつは、相手につたわらなければ意味がないと思う。たとえば、暗い声だと、あいさつしているつもりでも、相手に聞こえなかったり、明るい気持ちにならなかつたりする。下を向いたまま相手

手の顔を見ないであいさつすると、相手は、あいさつしてもらっている感じがしない。いいかげんなあいさつは、相手を軽く見ているように、ふざけた感じがする。相手をふゆかいにさせてしまうかもしれない。あいさつは、相手の心につたわるように、明るい声で、相手の顔を見て、笑顔でするのがよいと思う。朝、学校へ行く途中で、友達の他にも近所の人や交通指導員さんがあいさつをしてくれる。ぼくも元気よくあいさつをしている。あいさつをすると、楽しい一日が始まった感じがする。きっとみなさんもぼくと同じように晴れ晴れとした気分になっているにちがいないと思う。街のみんながたくさんあいさつをしあえば、きっと明るい社会になると思う。ぼくは、まわりの人に自分から、明るく元気にたくさんあいさつをするようにしたいと思う。



作文コンテスト 小学生の部 受賞者

**推進委員長賞** **命への意識** 西池袋中学校 2年生 伊藤 萌笑



連日、殺人事件、自殺、テロ、戦争など、「死」に関する様々な出来事が多々報道されています。泣き崩れる遺族、神妙な顔で何かを語る関係者、淡々と原稿を読み上げるアナウンサー。テレビ画面に映るそれはあまりにもありふれていて、何も感じないかも知れません。では、「生」についてはどうでしょうか。今、私たちは生きていて、その間にも新たな命が誕生しています。動物も植物も、互いに色々なつながりを持って地球で生活しているのです。でも、毎日朝起きるときに、「ああ、今日も生きているのだな。」と実感しているかどうかと言われれば、そうではないのではないかと思います。たいていの人は日中の活動の支度に追われて、そんなことを考える余裕もないでしょう。「死」と「生」の二つは真逆のものなのに、どちらも身近にありすぎて、普段はなかなか意識できないという共通点があります。逆に、ずっとそのこと考えていたらきりがありません。しかし、社会から犯罪などをなくし明るくしていくためには、生と死への意識、つまり「命への意識」を高めることが必要なのではないかと私は考えます。命への意識の低さが、今の社会に反映されているのではないかと思うのです。友達と話しているとき、たまに「死ぬ」や「殺す」といった言葉を使う人がいます。冗談で言っているのだらうと思いますが、冗談でそういう言葉が使えてしまうというのもどうなのでしょう。

自分に命があるのと同じように、他の人にも命があります。その重みに変わりはありません。それなのに、命を捨てる、または奪うということを経々と人前で行うことができちゃうのです。これは、個人だけの問題ではないと思います。テレビや漫画などでも、そのような言葉が安易に使われています。それは、社会全体が命をあまり重くみない風潮になっているからではないでしょうか。命は、この世界にあふれているものだけれど、一つの存在に一つしか与えられません。そのことを皆があと少しでも意識することができたら、命を無駄にするような行為を今よりも減らすことができると思うのです。私の考えは漠然としていて、もっと具体的なことを成さなければ意味がない、という人もいかもしれませんが、けれど、具体的な策を打ち出す前の心構えや志も大切なのではないかと私は思います。夜、布団に入ってから眠りにつく間でいいです。今日で出会った命あるものを、一つ一つ思い出してみてください。人間に限らず、動物や植物も含めてです。それぞれが生きている姿を思い浮かべてください。そして、自分でもそれと同じように命があるのだと心のこけで思ってください。きっと、自分も他のものも、同じように大切にしたいくなるはずです。命への意識を高め、命あるものを思いやること。これこそが明るい社会への第一歩だと思います。私もその社会の一員になれるよう、自分のできることから努力したいと思います。

**常任委員長賞** **命の大切さについて** 西池袋中学校 2年生 高橋 伶央



人の命には限りがあります。だからこそ、どう生きることが大切になってくるのだと思います。ぼくは、幼稚園の年長の時、一ヶ月間入院した経験があります。病名は髄膜炎でした。最初は、手足が震えて、急に力が入らなく、なんかおかしいと親が気づき、その後、頭が少し痛くなって、熱も、三七度五分位出たので、近くの医者に行きました。でも、ただの風邪だということで、熱さまだけもらって様子を見ましたが、薬を飲んで、症状が改善せず、親が、「手足の震えが変だ、気になる。」というので、別の救急病院に行って検査をしたら髄膜炎だからすぐ入院して下さいということでした。早く気付いたもので、どんどん良くなると思っていただけ、一週間位経ってからはいきなり、けいれんを起こして、心臓が止まり、生死の境をさまよってしまいました。意識が戻ってからも少しの間、脳がおかしかったらしく、母が、「脳が損傷をうけたのかも。」と思ったそうです。それから、何年も薬を飲み続けて、検査も、たくさん受けて、今は、元気に何事もなく過ごしています。こんな経験をしたので、ぼくは余計に当たり前にあるものではなくて、命は大事なものだと思っています。よく、いじめや悩みなどで、自ら命を落とす人がいますが、ぼくからしたら、それは、とてももったいないことだと思います。確かに、いじめられたり、どうしたらいいか、分からない程の悩みがあったらうまく、周りに相談もできなくて、死にたくなるかもしれません。でも、死ぬくらい覚悟があるなら、もう少し、他に

方法があるんじゃないかと考えてもいいと思います。考えぬいた末に死ぬ覚悟をもったとしても絶対に、その前に、まだ誰かに言っていないとか、相談できなかったとか、勇気を持って言ってみただけとか、あまり真剣に聞いてもらえなかったとか、何かしら後悔が残るようなまま、死を選んでいるんじゃないでしょうか。もしそうだとしたら、それは周りの人達にも責任があるかもしれないので、自分一人で、全部かえこまないで、死を選ぶ勇気があるなら、誰かに話す勇気を持って、生きるという道を選択してほしいとすごく思います。それだけせっかくだらば、この世に生まれてきた命なのだから、嫌なことがあっても、絶対無駄ではないはずと思うので、良い事も絶対あると思って、そういう時は、精一杯がんばりたいと思います。そして、つらい体験をした人の方が、人の心が良く分かって、優しくなれると思うし、人の痛みも分かる良い人になると思います。がんばって、命の大切さを感じながら、色々な事に感謝していると、幸せが自然と、きそうながします。ぼくは、これからは、困難にあたっては、初心を忘れずに、もらった命を大切にしていきたいと思っています。

**優秀賞** **支え合う** 西池袋中学校 2年生 大竹 亜美



命…。私はこの作文を書くにあたって、命とは何か、どういふものなのかを考えてみた。命といわれても、正直今まで考えてみた事もなく、あまりピンとこない。考えれば考えるほど、何なのか?何なのか?と頭が混乱するようであった。だが、いくつか思ったことがある。まず、一つ。私は、なぜ今生きているのかを考えてみた。思ってみれば私はもう産声をあげてから十三年もたっている。十三年たっているということは、十三年前はまだ赤ちゃんだったということだ。同じように、私の父だって、母だって、おばあちゃんだって子供の時代があったはずだ。でも、もし、その中のだれか一人でも生まれていなかったら…?私はもしかしたら生まれていなくて、ここにもいなかったかもしれない。そう考えると、今私が生きてここにいるという事はとてもすごいことなのではないかと思う。私が知らない昔の昔から、その命のリレーはつながり、とぎれることなく続き、今私のところまで来たのではないか。そう考えると、今生きていることがとてもうれしくなる。そして、そのリレーのバトンを、今私は受け取っているのだ。そのリレーを、私は止めたくはない。命は、一人の人間に、一つしかないかけがえのないものだ。ゲーム

の世界とは違う。ゲームは、失敗しても、死んでしまってもまたやり直せる。だが、人間は一度死んでしまえば、もう、もとにもどることはできない。そんなかけがえのない一番とっていいほど大切なものを、簡単に捨ててしまっているのか?今の社会では、色々やっかいなものがある。例えば、いじめ、殺人、目に見えない様々なこと。この多くが人と人との問題ではないだろうか。なやんでいないこと、困っていることがあり、自分で命をたつ人も少なくはない。そして、ほんのささいなことでも多くの人がきせになる事件も少なくはない。だが、これらの多くは、皆心の中で何かをやんでいることがあり、一人で抱えこんでしまい、追いつめられた末にこのような選んでしまったのではないかと私は思う。殺人犯という、その人だけが悪いように思えてしまう。だが、その人だけが事件を起こす前に何かをやっていたのではないかと。長年、なやんでいて、社会や世の中に不満があったのではないかと。そう思ってしまう。自ら命をたつことも大事件が起きることも、誰かになやみを相談する、打ち明けるだけで、防ぐことができるのではないだろうか。一人でかかえこむのはつらい。だれかにほんの少しの勇気をふりしほって相談してみる。それだけでもかなり心が軽くなるのではないかと。そう思う。人は、誰もが支え合って生きている。「人」という漢字のように。だから、たまには誰かにたよっていいのだ。だからその分、支えてあげよう。それだけで、きっと世界は変わると、私は思う。



### 作ろう!犯罪のない世界

優秀賞

長崎小学校 6年生  
あだち めぐみ  
足立 愛恵



わたしは、犯罪はぜったいにしてはならないことだと思います。でもなぜ犯罪は起きてしまうのでしょうか。

わたしは、感情の問題だと思います。例えば「一人ぼっちでさびしい」「友達とけんかしていららしている」などです。わたしはそのような問題で犯罪が起きているのならば、その感情や心の声に気付いてあげればいいと思います。そして、気付くためには、近くにだれかなやみを聞いてくれる人がいればいいと思います。その人は、お母さんでもお父さんでも親友でもいいと思います。

わたしもやらなくてはならないことがあると思います。それは、あいさつです。なぜなら、あいさつは人と人をつなぐ一番大切で簡単にコミュニケーションがとれる、なくてはならないものだと思うからです。あいさつをすることにより人と人がつながり、やがて地いき全体がつながります。地いきがつながることによって、犯罪を防ぐことができるのです。例えば、どろぼうにはいろいろとしている人がいるとします。でもその人に優しく声をかけることにより、「どろぼうに入るのはやめようかな」と思わすことができるのです。こういうふうに、一件一件犯罪を減らしていければいいと思います。そして、外だけではなく家では、「行ってきます。」や「ただいま。」を言い、学校では、「おはようございます。」や「こんにちば。」など積極的に声をかけて少しでも犯罪のない世界に近づいていければいいなと思います。

最初に犯罪は、感情の問題だと言いましたが、世界には、お金がなくて食べる物にもこままって犯罪をおかしてしまう人もいます。そんな人にも、声をかけて、国の救済機関を教えてあげたりすることで、犯罪に走らないようにすることもできると思います。日本の場合は、最低限文化的な生活ができるような仕組みもあり、何も犯罪をおかさなくても生きていけるのです。

長小ではないと思いますが、いじめは犯罪の一つだと思います。子どもの時にいじめをしたりしていると、大人になってから、それがエスカレートして、犯罪になると思います。

だから、わたしたちがやらなければならないことは、友達をたくさん作る。あいさつをしっかりする。いじめはぜったいにしない。この三つをやれば、犯罪のない世界に近づいていけるのではないかなと、わたしは思います。

### 思いやりの社会

優秀賞

椎名町小学校 5年生  
さいとう はやと  
齊藤 隼人



あなたは、電車の中で、障害のある人や、妊婦さん、けがをしている人などを見たことがあると思います。この作文を読んで、思いやりの気持ちの大切さを改めて考えて下さい。

ぼくは、毎週三回、じゅくに通っています。電車でじゅくまで、友達と、行き帰るのでよく電車に乗ります。

じゅくに通う時、電車では、行きは少しこんでいるので座らないように、帰りは少し空いているので座っても良いことに、自分の中で決めています。帰りに、もしもこんでいる時があったら障害のある人、妊婦さん、けがをしている人などにゆずります。そしてぼくが一番気にしていることは、ゆうせん席に座らないということです。たとえ、ゆうせん席がたくさん空いていても、座らないということを心がけています。それと、めいわくをかけないということも大切だと思っています。

めいわくをかけないということは電車の中だけではなくありません。駅の構内やせまい歩行者道路など色々あります。最近、じゅくの先生も「駅ではエスカレーター、エレベーターを使いません。」とみんなに言っています。

東日本大しんさいの時もCMで「思いやりの心は大切です。」というCMもありました。そのCMは、ぼくは何十回も見ました。そしてそのCMで思いやりの大切さを学びました。

よく、アニメでお年寄りが重い荷物を持っていて、その荷物を持ってあげるという場面があるけれど、思いやりはすごく大切なので、その子はやさしいな、とかぼくもやろうとか、そのアニメを見ていて思います。実際にやったことがないけど、やったら自分はどんな気持ちになるのかなと思うので、ぜひやってみたいです。

思いやりはすごく大切です。ぼくも、改めて、もっと思いやりの気持ちを持たなくては、やさしい気持ちを持たなくては、と思いました。思いやりは、やった人も、やってもらった人もうれしくなるので、ぜひたくさんやって下さい。

### 初めの一步を皆の心に

優秀賞

西池袋中学校 2年生  
こまば のりゆき  
駒場 紀行



ぼくは小学校の頃の読み聞かせで、「命をいただく」という話を聞いた事があります。人間が生きるのには、植物や動物等、あらゆる命を殺して、その命を頂いているという事を改めてこの本で気付かされました。

最近では日野原重明さんの本を読んでいて、その中の九・一一事件の事や服部君という少年の留学での事件等、内容は少し違いますが、命についての大切さを考えさせられました。

毎日の生活の中で、感じている、これらの事に関して、書きたいと思っています。

まずは、命を頂いていることに関してです。ときどき、コンビニエンスストアやスーパーに行った時、大量に造られているお弁当やおそうざいは売れ残った時にどうしているのだろうと考えます。ファーストフード店ではポテトを揚げて、十分経過すると捨ててしまう所もあるそうです。きっと日本全部で一日に出る残飯や、売れ残ってしまった商品は大量にあると思います。その中には、もちろん、ぼくが嫌いで残した物も入るでしょう。もしも、この食料が飢饉で苦しむ発展途上国の人達に、渡せる事ができたら、どれだけ多くの人達を救えるのでしょうか。

そう考えていくと、せめて食事を残さない様にしようと感じました。それは結局、どこかでつながって、誰かの命を救う手助けを出来るかもしれないからです。まだまだ、勉強不足で、中学生のぼくにはできる事が限られていますが、まずはじめの一步が大切だと思っています。どんなに小さくても、何かをしなければ、何も変わらないと思うからです。そして、それは伝え合う事で大きな力になっていくという事を信じています。

次に大きな事件や災害についての事を書きます。最近、学校の社会科の宿題に「世の中ノート」という、世界で起きたニュースを調べ、感想を書くという課題があります。新聞やインターネットで毎日、調べている内に世界では内戦やテロで沢山の人の命が奪われ、異常気象が原因で、各地でいろいろな天災が起きていることも知りました。大島の災害の時は、兄の担任が大島のご出身だったので、友人・知人が亡くなられたという話も伺いました。その中には僕と同じ中学生で、災害によって両親を亡くした人も聞いて、胸が痛かったです。

母は野外教育活動の会社に勤めています。会社の人が大島にボランティア活動に向かったり、募金活動をしたりしています。3年前の東日本大震災の時も、みんなで援助に向かったそうです。現地では世界の各国から救助隊が来たり、食料や物資が提供されたり、たくさんのボランティアが活動に参加しに、集まっていたそうです。こうして心がつながり支え合って大きな災害を乗り越えてゆくのだと思いました。

地域社会造りについても同じ事が言えると思います。一人一人が自分のできる初めの一步を踏み出し、お互いの思いを伝え合う事、そしてお互いや社会を知って、気づく事が大切だと思います。その結果心がつながり、お互いを支え合っていければ、すばらしい地域社会の発展につながる事だと思います。

今の僕が生きて元気に学校へ通い、部活をしたり、友達と遊んだり出来るのも、沢山の人ののおかげです。きっと気付かない所や見えない所で支えてくださっている方々も沢山いらっしゃる事でしょう。その事が安全な、地域社会造りについては目立たないけれども、一番大切なのだと思います。ぼくも出来る事の一つずつ、やり続けていきたいと思います。

### 命の大切さ

優秀賞

駒込中学校 2年生  
いけだ まゆ  
池田 真優



最近中学生のイジメによる自殺のニュースをよく耳にします。自殺してしまう子の立場を考えると、さぞつらかったでしょう、さぞ悲しかったでしょうと同情してしまいます。でも、最後の最後に自殺する子を苦しめ痛みつけるのは、イジメっ子ではなく、自殺する本人です。

私は昔イジメを受けていました。イジメられても、その当時の私は気が弱かったため、何も言い返さず笑ってばかりいました。蹴られても叩かれてもただひたすらにこらえました。自分で自分がもうこの世界に私は必要ではないのだろうか、もう私が死んでも誰も悲しまないのだろうか悲観的な考えにどんどんなっていました。けれど、私が自分は恵まれていると思う所が一つだけあります。それは母親の存在です。母親がいなければ、今の私はいないと思うほど私は母親が大切でした。イジメを受けていることを私が話すと、いつも私の立場になってくれ、口が少し悪いですがイジメっ子の名前を呼び捨てにしたり、私のことを親身に考えてくれました。そして、イジメっ子への対処法も教えてくれたり、時には深いことを教えてくれたりします。私が一番覚えている深いことは、「イジメっ子は卑怯だから、イジメられている子の心を傷つけるだけ。自殺しようが何しようがイジメっ子なんか絶対反省しないって。そんなの不公平でしょ。だから真優、死ぬなよ。あんたが死んだらイジメっ子らはすぐ忘れるよ。生きな。そして、イジメっ子より幸せになっしまえ。」と。幼かった私はその時よく理解できませんでしたが、嬉しくて泣いたことだけは覚えています。

だから、もし私が世界中を旅することができたなら、苦しんでいる人たちに「大切な人を見つけてみて、その人と自分のために生きてみよう。」と、アドバイスしたいです。そして、絶対負けないでと言いたいです。負けてしまったら何も自分への良いことが無いからです。それに、親からもらった奇跡から生まれた尊い命を、早くに絶やさなでほしいからです。この世界には、生きたくても生きられない人や、自分のしたいことができない人がたくさんいます。その人たちのためにも、どうか負けないでほしいです。

私は中学生になってから勉強を本格的に始めました。私は医者になりたいという夢があるからです。特に一番今気になっているのが産婦人科医です。生命の誕生を見ることが出来るからです。ところが、毎日勉強しているはずなのに成績がなかなか伸びず、つらくなって、もう努力してもムダなのではないかと思ってしまう、また自分の命を粗末なものとして見てしまいます。でも、私の幼いころからの夢は簡単にはあきらめることができず、他の目標も思いつきません。一人一人の命を守りたい、そんな思いでいっぱい、命を助ける職業につきたいと思っています。そして、一人一人の命がとても大切なことと、苦しくても絶対に幸せがどの人にも訪れることを伝えていけるようなたくましい医者になりたいです。